

JHFREPORT



パラグライディング日本選手権 IN 獅子吼高原より。競技4日目。(P12の報告をご覧ください。)

2019年定時総会を開催しました

6月11日(火)、東京都北区の『北とぴあ』第二研修室において、出席正会員(都道府県連盟)38名、委任状4会員、議決権行使5会員、合わせて全国47正会員の参加を得て、2019年JHF定時総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

報告事項1: 2018年度事業報告

報告事項2: 2018年度決算報告・監査報告

決議事項1: 貸借対照表及び損益計算

書(正味財産増減計算書)の承認

報告事項3: 2019年度事業計画

報告事項4: 2019年度収支予算

決議事項2: JHF役員選任について

報告事項の質疑、決議事項1の承認が行われ、決議事項2の役員選任では、理事立候補者7名、監事立候補者2名の全員が必要な票数を獲得して新役員に選任されました。

日本学生フライヤー連盟からは、広報活動や情報発信を早めに実施するこ

とに努めた結果、大会や合宿への延べ参加人数が増加したとの報告がありました。また金沢大に新しいハンググライディングサークルができたこと、各地の新歓活動でVRの活用を多く行ったことなども報告されました。

茨城県ハング・パラグライディング連盟からは9月7日に開催する「いきいき茨城ゆめ国体2019」デモスポ大会のハンググライダー、パラグライダーの競技について説明がありました。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツ&L



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

新理事・監事が選任されました

6月11日（火）の2019年定時総会において、正会員の投票により理事7名、監事2名のJHF役員が選任されました。また総会後の理事会で代表理事（会長・副会長）を決定。2021年定時総会までの任期中にどのような活動をしていくか、各人の抱負を聞きました。



理事 会長
内田 孝也（東京都）

2018年12月に日本ハンググライディング委員会発足40周年、2019年3月に「全日本還暦アップカップ」という行事があり、参加させていただきました。私もとうとうそういう年代となり、日本におけるハンググライディング草創期の皆さまも世代交代に直面していると伺っております。

日本のフリーフライトは今後どうなるのか、どうしていきたいのか。しっかりと見届けたいと思います。先日の総会では「フライヤーの声を聴いていない」というご指摘がありました。ご意見ご指摘は、いつでも事務局までお送りください。



理事 副会長
安田 英二郎（神奈川県）

スカイスportsの普及のためには多くの人に知ってもらうだけではなく、大きな魅力を持つことも大切です。サーフィン、スキューバ、バイク、スノボといったアウトドアスポーツに負けないように各エリアやスクールの魅力を上げていくことが必要です。狭い地域での客の取り合いではなく、他のスポーツとの競争で勝ちましょう。そのための地道な努力をJHFから発信していきたいと思っています。また、安全面ではJHFの限られた資源をできるだけ有効に活用して安全対策の成果を見えるようにしたいと思っています。



理事 副会長
小林 秀彰（福岡県）

2017年から理事を2年間経験して、率直な感想は「理事会は楽しくない」

です。公益法人に関する法律で理事会は経営者と位置付けられ、権限が集中するため理事の責任と義務も大きく、法律、定款、規約などに沿った活動を余儀なくされます。つまり思い付きやその場ののりでは活動できないのです。

そういう状況でも、理事会はJHFを永遠に存続させるために、事故撲滅、愛好者増加を目指さなければなりません。そのためには経営集団である理事会と実働部隊である専門委員会との連携が重要になります。

- 2期目の私の目標を2点あげます。
- ・死亡事故0を目指す
- ・委員会との密接な連携を行う

今期も理事として頑張りますので、ご指導、ご支援をお願いいたします。



理事
芦川 雄一郎（東京都）

理事に選任され4期目を迎えました。アジア大会で金・銀メダル獲得と華々しいなか、残念ながら事故は起きています。謙虚に慎重に空を楽しんでいただきたいと思います。フライヤーである前に常に善き市民であることを望みます。



理事
市川 孝（埼玉県）

公益社団法人としてのJHFの活動は、厳しい法律の規制の下で、公平・公正・厳正な組織の運営が必要となります。行政府への対応も重要な施策となりますが、会員であるフライヤーの意見を取り入れた運営も重要となります。今後とも自由なフライトの維持と安全性の向上を図るための取り組みを進めてまいります。



理事
大澤 豊（茨城県）

フライヤー会員の減少を食い止め、増加に持っていくために、新たな挑戦も必要になると感じます。そして、安全のためにやるべき課題に粛々と取り組みます。ハング競技の普及、振興、レベルアップを今後も若い選手たちと一緒に考えていきます。



理事
殿塚 裕紀（栃木県）

理事として通算3期目はJHFをより良くするためにはどうしたらいいのか、そのために理事会が何をできるのか、より建設的な議論を重ねたいと考えております。

日本のフライヤー人口は減少の一途をたどっていますが、世界から見ればスカイスports先進国です。JHFも大きな組織です。悲観することなく、新しい形の組織作りに励んでまいります。またJHFは委員会の皆様のお力添えにより運営できており、委員の皆様には深く感謝しております。1年後には委員会の再編成があります。JHFの10年後を見据えて、30～40代の方が立候補されるのを切に望んでおります。



監事
岩村 浩秀（東京都）

気がつけば、JHF監事の職務も4期7年目に突入しました。就任当初は、今のパラ・ハング界の状況を把握するのに手いっぱいでした。

現在の論点はフライヤー会員の減少と事故対策だと思います。監事としては2年に一度の内閣府の検査対応と将来的な資金繰りの検討などを考えています。皆さん、また2年よろしく願います。



監事
大森 健一（茨城県）

この度、初めて監事に選任いただきました。学生からハンググライダーを始め、現在は税理士の仕事をしながら飛び続けています。

ハング、パラとは、飛ぶ時は1人ですが、飛ぶためには色々な問題を皆で解決して、飛んだ成果を皆で話したりして…飛ぶことを愛する人達皆で楽しむものだと思っています。その一番大きな枠組みがJHFであり、フライヤーのためにJHFがより良い形で発展していくように、監事としてできる限り尽くす所存です。

JHFの2018年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2018年度事業報告」より

2018年4月1日から2019年3月31日まで、公益社団法人としてJHFが取り組んできた事業と収支について報告します。

I 概要

2018年度はアジア競技大会でパラグライダー・クロスカントリー競技において男子チームが金メダル、女子チームが銀メダルという高成績をあげました。これはテレビや新聞等で報道され、各選手の地元でも大きくとりあげられました。しかし、残念なことにパッセンジャーに大きな被害を与えたパラグライダータンデムによる事故が2件続けて発生してしまいました。安全面ではパイロット安全セミナーを13ヶ所で開催し、プレフライトチェックを徹底するためのチェック5タグの配布、夏季休暇期間に事故ゼロキャンペーン等の安全啓蒙活動を行いました。今後も安全対策には力を入れていく必要があります。JHFの制度としてはタンデムの技能証規程を改正し第1回上級タンデム検定会を開催しました。

1. 収支の現状

2018年度でも、公益目的事業基金の取り崩しは行いませんでした。期中に制度変更対応などの予定していなかった事業支出がありましたが、前年度の決算で次期繰越金が予算作成時の想定以上にあったので、手元資金を使い切るくらいで運営資金補充には至りませんでした。安全意識啓蒙など、今年度は、フライヤー個人に届くような施策にお金をかけましたが、これからも3年程度は同様な費用を安全施策に充てられます。JHFの財政力のあるうちに、実質的な効果を得られることを期待しています。



都内で開催した2019年定時総会。全国から正会員が参加。

(収入・支出の割合は次ページの円グラフをご覧ください。)

2. 組織運営等

- 1) パラグライダー／モーターパラグライダーパイロット安全セミナーを13ヶ所で開催
- 2) 教員検定員による教員助教員更新講習会を11ヶ所で開催、65名が受講
- 3) レスキューパラシュートトリバック更新講習会を10ヶ所で開催、39名が受講
- 4) 教員技能証学科検定については集合研修検定を2月15日～17日に開催、8名受検、2名合格
- 5) 第1回上級タンデム検定会を開催61名受検、ハンググライダー8名、パラグライダー30名が合格
- 6) 7月31日～8月19日 事故ゼロキャンペーンを実施(チェック5タグ配布)
- 7) 第5回JHFフォトコンテストを開催

3. 特記事項

- 1) 第41回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月28日(土)・29日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 平成30年度一般財団法人日本航空協会「空の日」航空関係者表彰式が開催され(9月20日)、アジア競技大会のパラグライディング日本選手団(クロスカントリー競技の男子団体金メダル、女子団体銀メダル)が「多くのひとびとに航空スポーツの魅力を伝えることに貢献」したことにより「空の夢賞」を受賞した。また、ハンググライダーの服部良亮選手に日本記録証が授与された。
 - ・直線距離 393.7km (2018年1月2日) オーストラリア
 - ・目的地直線距離 388.8km (2018年1月2日) オーストラリア
 - ・三旋点距離 166.4km (2018年1月4日) オーストラリア
- 3) 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」に、東京都ハング・パラグライディング連盟(8月4日・5日)、群馬

県ハング・パラグライディング連盟(9月15日)、茨城県ハング・パラグライディング連盟(2019年3月23日)が協力

4) 後援イベント／体験会

●10月21日(日) 埼玉スカイスポーツフェスタ 埼玉県熊谷市妻沼滑空場(ハンググライダー、パラグライダー体験とデモフライト)

5) 第24回スカイスポーツシンポジウムを協賛

12月1日(土) 都立産業技術高等専門学校(荒川校舎) 汐梨ホール

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員：47

フライヤー会員：7,247名(2019年3月末有効登録数)

賛助会員：12

2) 役員構成(2019年3月末現在)

理事：9名(内会長1名、副会長2名)

監事：1名

2. 会議等の開催

1) 総会

2018年6月定時総会

開催通知：4月4日(水)

開催日：6月18日(火) 11:00～17:00

開催場所：北とびあ 7階・第二研修室(東京都北区王子)

目的事項：

報告事項1：2017年度事業報告について／報告事項2：2017年度決算報告について／決議事項1：貸借対照表及び損益計算書の承認について／報告事項3：2018年度事業計画について／報告事項4：2018年度収支予算について

2) 理事会

第1回理事会

5月16日 出席：理事8、監事1

第2回理事会

8月30日 出席：理事9、監事1

第3回理事会

12月5日 出席：理事8、監事1

第4回理事会

1月26日 出席：理事9、監事1

第5回理事会

2月4日 出席：理事9

第6回理事会

3月5日 出席：理事9、監事1

文書理事会

6月4日、6月26日、8月3日、9月13日、10月15日、10月18日、12月20日、1月7日、1月10日、3月25日

3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会
競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会
競技会開催時に実施

■補助動力委員会

12月17日

■教員・スクール事業委員会

4月10日、6月5日、11月13日、1月11日、1月25日

■安全性委員会

5月18日、7月25日、1月18日

■制度委員会

7月5日

■ハングパラ振興委員会

6月5日、10月3日、3月28日

■役員選任実行委員会

5月21日、1月31日

■委員長理事合同会議

2月19日

上記のほか電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

●JHFレポートを発行（4月、7月、10月、1月）＊独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

●都道府県連盟事業費の交付

●日本学生フライヤー連盟への助成金交付

2) フライヤー会員登録

2018年度新規・更新登録数：5,510名
(2017年度5,668名)

3) 技能証発行

HG（ハンググライダー）：216枚（2017年度210枚）

PG（パラグライダー）：868枚（2017年度1,034枚）

MPG（モーターパラグライダー）：14枚（2017年度17枚）

レスキューパック認定証：57枚
(新規16・更新41)

4) 競技会の主催・公認・後援

HG：16件（内FAIカテゴリーⅠ・Ⅱ：6件）

PG：28件（内FAIカテゴリーⅠ・Ⅱ：2件）

HG・PG同時開催：6件

5) 競技会の開催

●ハンググライディング：

・日本選手権

11月22日～25日 静岡県富士宮市 西富士友の会エリア 参加50名 日本選手権者：大門浩二 女子日本選手権者：不成立（人数不足）

・クラスV日本選手権

2018年3月30日～4月1日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加11名 日本選手権者：板垣直樹

・ハンググライディングシリーズ（参加78名） 1位：鈴木博司 女子1位：佐野容子

・ハンググライディングフライトコンテスト

2018年度決算報告より

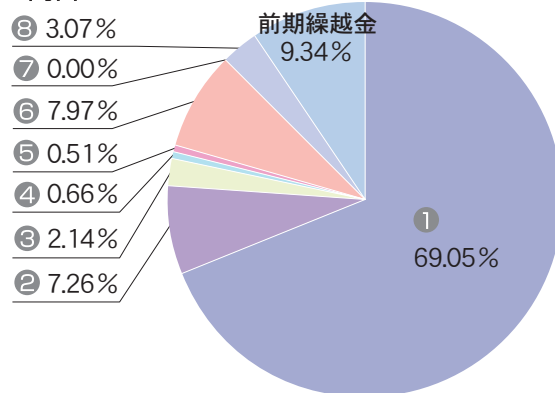
収入 (単位:円)

① 会費等	36,885,805
② 技能証の発行に基づく収入	3,877,000
③ 競技に関する収入	1,143,000
④ 教本等の頒布に伴う収入	352,800
⑤ 検定会参加費	270,000
⑥ 補助金	4,258,000
⑦ 機体登録費	0
⑧ その他	1,639,332
前期繰越金	4,990,250
合 計	53,416,187

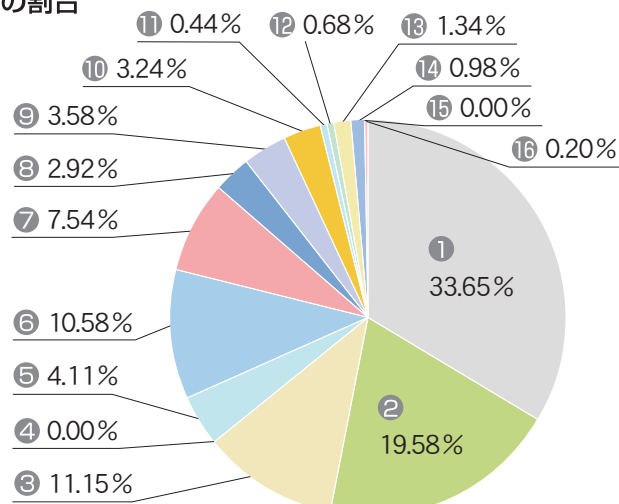
支出 (単位:円)

① 会員サービスのために	17,878,615
② JHFの維持運営のために	10,404,043
③ 都道府県連盟の補助のために	5,923,930
④ 公益事業の推進のために	0
⑤ 世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	2,181,480
⑥ 広報・普及活動のために	5,622,568
⑦ 日本選手権や国体デモスポのために	4,007,320
⑧ 競技のために	1,553,734
⑨ よりよい教習環境のために	1,900,837
⑩ 委員会活動のために	1,722,318
⑪ 補助動力のために	234,860
⑫ 学生の補助のために	361,108
⑬ 事故調査や安全のために	714,011
⑭ 海外との交流のために	520,549
⑮ 制度のために	0
⑯ 総会のために	104,560
合 計	53,129,933

収入の割合



支出の割合





HG日本選手権は大門浩二（後列中央）が7度目の栄冠。



不成立のPG日本選手権は上山太郎（後列中央）が1位。



和田浩二と伊藤まり子がアキュラシー日本選手権者に。

[フリーディスタンス] クラスV 1位: 岡田伸弘 (149.94km) クラスI 1位: 石坂繁人 (173.63km)

[アウトアンドリターン] クラスV 1位: 林寺仁 (103.21km) クラスI 1位: 石坂繁人 (104.82km)

[トライアングル] クラスV 1位: 山本剛 (93.34km) クラスI 1位: 石坂繁人 (95.03km)

[デュレーション] クラスV 1位: 林寺仁 (5時間08分20秒) クラスI 1位: 鳥羽岳太 (9時間57分39秒)

●パラグライディング

・日本選手権

9月21日～25日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加79名 不成立

・アキュラシー日本選手権

11月10日・11日 栃木県小山市小山絹滑空場 参加31名 日本選手権者: 和田浩二 女子日本選手権者: 伊藤まり子

・ジャパンリーグ (参加115名) オープンクラス 1位: 成山基義 オープンクラス女子 1位: 山下敦子 スポーツクラス 1位: 小林大晃

・ジャパン2リーグ (参加79名) 総合 1位: 辻本恵一 女子 1位: 橋本泉
・クロスカントリーリーグ (参加34名 138本) 1位: 中川喜昭 (457.4km) 最長フライト: 中川喜昭 (146.5km)

・アキュラシージャパンリーグ (参加33名) スクラッチクラス 1位: 和田浩二 スクラッチクラス女子 1位: 伊藤まり子 ハンディキャップクラス 1位: 和田浩二 学生クラス 1位: 該当者なし チーム 1位: Airkassy
6) スクール・エリア情報の収集及び公開

●スクールサイト登録校: 165件 (内新規登録校 2件)

●エリア情報掲載: 175件 (削除 2件)

7) 海外関係団体活動

CIVL総会 2019年1月31日～2月3日 スイス 出席者: 岡芳樹 (デレゲイト)、北野正浩 (教員・スクール事業委員長)

8) 世界選手権等へのチーム派遣

●第8回FAIハンググライディングクラスV世界選手権

参加選手: 6名 7月10日～20日 マケドニア

●第1回FAIアジア・オセアニア・パラグライディング・アキュラシー選手権

参加選手: 5名 4月3日～12日 タイ

●第18回アジア競技大会

参加選手: 8名 8月18日～9月2日 インドネシア

9) その他

●機体型式登録: 0件

●機体情報登録: 0件

2018年度の委員会活動

2019年総会資料「2018年度委員会活動報告補足」より

現在、JHFには八つの常設委員会があり、各委員は連盟活動の担い手として活躍しています。以下は、2019年総会において報告された委員会の活動内容です (事業報告との重複あり)。

ハンググライディング競技委員会

委員長: 板垣直樹

1) ルールブックの改訂

2) 委員会ホームページの運営
大会公認案内、エントリー案内等の更新は随時実施

3) ライブトラックの競技導入により集計の簡略と安全運営の両立

4) 第8回FAIハンググライディングクラスV世界選手権選手派遣 (マケド

ニア、クレシェボ) 7月10日～20日 約33名参加 (日本からは6名) 板垣直樹 7位、岡田伸弘12位、宍戸孝之17位、松田隆至22位、太田昇吾23位、柳田崇28位 国別 3位

5) 2018年ハンググライディング・クラスI日本選手権開催 (静岡県富士宮市西富士友の会エリア) 11月22日～25日 50名参加 タスク3本成立・日本選手権成立 日本選手権者: 大門浩二 2位: 氏家良彦、3位: 太田昇吾、4位: 鈴木由路、5位: 鈴木博司、6位: 板垣直樹 女子 1位: 佐野容子、2位: 谷古宇瑞子、3位: 櫻井さやか
6) 2018年クラスV日本選手権開催 (茨城県石岡市足尾山エリア) 3月30

日～4月1日 11名参加 タスク3本成立 日本選手権者: 板垣直樹、2位: 山本剛、3位: 宍戸俊之

7) ハンググライディングシリーズ管理運営

参加人数78名 1位: 鈴木博司、2位: 板垣直樹、3位: 田中元気 女子 1位: 佐野容子、2位: 櫻井さやか、3位: 谷古宇瑞子

8) ハンググライディングXCリーグ
に変わってフライトコンテストを開始
・フリーディスタンス

クラスI 1位: 石坂繁人173.63km、2位: 牟田園明167.80km、3位: 氏家良彦106.15km クラスV 1位: 岡田伸弘146.94km、2位: 佐々木則生

143.13km、3位：板垣直樹134.3km
 ・アウトアンドリターン
 クラス I 1位：石坂繁人104.82km、
 2位：砂間隆司88.55km、3位：氏家
 良彦67.95km クラス V 1位：林寺仁
 103.21km、2位：松田隆至103.11km、
 3位：山本剛89.2km
 ・トライアングル
 クラス I 1位：石坂繁人95.03km、2
 位：十一誠56.46km、3位：板垣直樹
 52.62km クラス V 1位：山本剛
 93.34km、2位：松田隆至85.23km
 ・デュレーション
 クラス I 1位：鳥羽岳太09：57：39、
 2位：大沼浩08：56：34、3位：松田
 隆行08：49：47 クラス V 1位：林寺
 仁05：08：20、2位：柳田崇04：50：
 56、3位：山本剛04：27：56
 9）各種大会のJHF公認および後援申
 請に対する審議および承認

パラグライディング競技委員会

委員長：岡芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) 第1回アジア・オセアニア・パラ
グライディング・アキュラシー選手権へ
選手派遣（タイ、Pa Sak Jolasid Dam,
Saraburi Province）4月3日～12日
日本から男子5名参加 総合1位：ジ
ヤンウエイ・ワン（中華人民共和国）、
2位：タナパット・ルアンジャム（タ
イ）、3位：ホンジ・ワン（中華人民
共和国）、18位：岡芳樹、28位：古田
岳史、30位：古賀光晴、33位：横井清
順、35位：平野竜二 女子1位：チャ
ンチカ・チャイサヌク（タイ）、2位：
ジンウェン・ロン（中華人民共和国）、
3位：スナパット・プチョン（タイ）
国別1位：タイ、2位：中華人民共和
国、3位：台湾、5位：日本
4) 第18回アジア競技大会へ選手派
遣（インドネシア、ジャカルタ・パレ

ンバン）8月18日～9月2日 男子
 5名：岩崎拓夫、上山太郎、呉本圭樹、
 中川喜昭、廣川靖晃 女子3名：平木
 啓子、望月奈緒、山下敦子 XC団体
 男子1位：日本、2位：ネパール、3
 位：インドネシア XC団体女子1位：
 大韓民国、2位：日本、3位：インド
 ネシア アキュラシー団体男子1位：
 インドネシア、2位：大韓民国、3位：
 タイ、9位：日本 アキュラシー団体
 女子1位：タイ、2位：インドネシア、
 3位：大韓民国、5位：日本 アキュ
 ラシー個人男子1位：ジャフロ・メガ
 ワント（インドネシア）、2位：ジラサッ
 ク・ウイッティータム（タイ）、3位：
 チュルソー・リー（大韓民国）、12位：
 呉本、17位：廣川 アキュラシー個人
 女子1位：スナパット・プチョン（タ
 イ）、2位：ダギョン・リー（大韓民国）、
 3位：リカ・ウイジャヤンティ（イン
 ドネシア）、8位：平木、12位：山下
 5）Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、
 AJリーグ管理

・Jリーグ（参加人数115名）

[オープンクラス] 1位：成山基義、
 2位：上山太郎、3位：呉本圭樹
 女子1位：山下敦子、2位：中目みど
 り、3位：望月奈緒

[スポーツクラス] 1位：小林大晃、
 2位：田中健、3位：氏田敏彦

・J2リーグ（参加人数79名）

総合1位：辻本恵一、2位：岩谷勝弘、
 3位：橋本泉 女子1位：橋本泉、2
 位：坂本智春、3位：田村康子

・XCリーグ（34名、138本）

1位：中川喜昭（457.4km）、2位：二
 三四藤昭（453.9km）、3位：多賀純
 一（443.0km）最長フライト：中川
 喜昭（146.5km）

・AJリーグ（参加人数33名）

[スクラッチクラス] 1位：和田浩二、
 2位：岡芳樹、3位：古田岳史 女子
 1位：伊藤まり子、2位：橋本みさ紀、

3位：平木啓子

[ハンディキャップクラス] 1位：和
 田浩二、2位：古賀光晴、3位：古田
 岳史

[学生クラス] 該当者なし

[チーム] 1位：Airkassy、2位：空
 とも、3位：のびのび

6) 2018年度XC日本選手権開催（茨
 城県石岡市足尾山エリア）9月21日
 ～25日 タスク1本成立／4日 79人
 参加 規定により日本選手権として不
 成立 総合1位：上山太郎、2位：中
 村浩希、3位：青木和広、4位：高杉
 慎吾、5位：呉本圭樹、6位：吉田和
 博 女子1位：望月奈緒、2位：金本
 知子、3位：中目みどり スポーツク
 ラス1位：金本知子、2位：青木政昭、
 3位：小林大晃

7) 2018年度アキュラシー日本選手権
 開催（栃木県小山市小山絹滑空場）

11月10日・11日 6ラウンド成立 31
 人参加（オープン参加の6名含む）規
 定により日本選手権として成立 オー
 プン総合1位：ジフン・ヨー（大韓民
 国）、2位：ジュンミン・リー（大韓
 民国）、3位：和田浩二、4位：ダギョ
 ン・リー（大韓民国）、5位：岡芳樹、
 6位：小松理樹 日本選手権総合1
 位：和田浩二、2位：岡芳樹、3位：
 小松理樹、4位：古田岳史、5位：川
 村真、6位：塚原隆信 日本選手権女
 子1位：伊藤まり子、2位：中目みど
 り、3位：菊田久美

安全性委員会

委員長：伊尾本浩二

- 1) 2018年度事故件数
 PG 26件（内重大事故3件）
 HG 4件（内重大事故0件）
- 2) 機体登録制度の推進
- 3) PG・MPGパイロットセミナー
 （安全セミナー）の開催
 2月24日、25日 PG 広島県連盟 30



HGクラスV世界選手権、銅メダル獲得の日本チーム。



アジア競技大会PG日本選手団が「空の夢賞」を受賞。



直線距離393.7km。服部良亮がHG日本記録を更新。

名 目黒担当／3月17日 MPG 石川県連盟 10名 伊尾木担当／3月18日 PG 石川県連盟 45名 伊尾木担当／6月3日 PG 群馬県連盟 30名 伊尾木担当／7月7日 MPG 北海道 15名 須藤担当／7月7日PG 奈良県連盟 20名 福田担当／7月21日 MPG 長崎県連盟主催佐賀県 20名 西本担当／9月23日 MPG 滋賀県長浜市 20名 橋田担当／11月18日 PG 群馬県連盟 20名 伊尾木担当／11月11日 MPG 大分県 15名 橋田担当／12月10日 MPG 埼玉県東松山 10名 伊尾木担当／12月16日 PG 長崎県連盟 20名 西本担当／1月19日 PG 宮崎県 15名 西本担当

4) セーフティーノーツの管理 (担当: 竹村)

・定期的に管理し、可能な範囲をホームページに反映

5) ハンググライダー機体整備制度・現状調査 (担当: 西本)

6) 安全性委員会ホームページ管理 (担当: 伊尾木)

・定期的に確認

7) 事故情報アンケート調査実施 (全国スクールおよびクラブエリア宛て)

8) チェック 5 タグの制作と配布 (安全注意喚起用)

【5項目】レスキューピン、ラインチェック、バックル (レッグ→チェスト)、無線機 (通信→ロック)、風の状況

教員・スクール事業委員会

委員長: 北野正浩

1) 教員実技検定会 PG 5 名 HG 0 名

2) 教員学科集合検定 (2019年 2月15日～17日) 参加者 9 名

(受検PG 7 名、HG 1 名。現役PG教員 1 名が勉強のため参加)



初のアジア・オセアニアPGアキュラシー選手権。

3) 教員助教員更新講習会 11ヶ所 65名受講

4) レスキューパラシュートトリバック 認定証検定 新規認定16名

5) レスキューパラシュートトリバック 認定証更新講習会 10ヶ所39名受講

6) PG教本改訂作業 (最終校正段階)

7) HG教本作成 (校正作業中。制度委員会による確認も必要)

8) タンデム技能証規程を改正し上級タンデム技能証を新設

第1回講習検定会を2019年 3月12日～14日に開催

9) パイロット証更新制度導入案の作成

10) チェック 5 タグの制作と配布 (安全性委員会と合同)

補助動力委員会

委員長: 須藤彰

1) 2018年度事故件数 MPG 3 件 (内重大事故 0 件)

2) MPGパイロット安全セミナー開催

3月17日 石川県連盟 10名 伊尾木担当／7月7日 北海道 15名 須藤担当／7月21日 長崎県連盟主催佐賀県安全セミナー 20名 西本担当／

9月23日 滋賀県長浜市 20名 橋田担当／11月11日 大分県 15名 橋田担当／12月10日 埼玉県東松山 10名 伊尾木担当

3) MPG全国大会開催

・イベント競技として九州大分県で実施 (11月10日・11日) 参加15名

※当初の予定日は台風の影響でキャンセルし延期。

4) 事故撲滅キャンペーンを実施 (教員・スクール事業委員会開催内容と同時期)

5) 下総航空基地周辺飛行安全会同への参加 (2月)

6) 補助動力委員会ホームページの管理

7) レスキューパラシュートトリバック講習会開催

制度委員会

委員長: 中瀬誠

1) JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理

－理事会諮問事項への答申等

・規約改正案 2 点作成と総会決議事項の理事会上程:

JHF総会傍聴規約/JHFおよび都道府県連盟プライバシーポリシー規約

・規程改正案作成と理事会上程:

JHF正会員 (都道府県連盟) 助成金事業交付規程/JHFにおける諸規定作成

管理要領/JHF宮原賞に関する規程/JHF名誉会長・名誉顧問・顧問選任規程/JHF名義使用承認規程/JHF事故

調査専門員規程/JHF事業実施指針/JHF事業実施指針細則/JHF日本学生

フライヤー連盟助成事業交付規程

・JHFホームページ上の総覧整備 (規程改正およびFAI部分)

<https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>

・上級タンデム技能証名称案上程

－FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究

・ハンググライダー公式日本記録申請支援

2) 他委員会および事務局との連携

－各種制度導入および改定について教員・スクール事業委員会と検討

・タンデム技能証改正ならびに上級タンデム技能証新設 技能証規程改正案作成し理事会提出

ハングパラ振興委員会

委員長: 井上潔

1) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討 (継続)

－フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し

－飛ぶのを止めてしまった方の状況分析

－学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討 (学連と連携)

－家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ (仮称)」制作、学生向けに配布開始

－JHFレポートの活用検討 (特集記事など)

2) 体験会等イベントへの協力

－体験会を安全に実施するための指針検討 (安全性委員会と連携)

3) 外部組織との連携

－ヴァーチャルリアリティ体験に関する大学研究室との協力体制維持

4) HG教本・PG教本改訂への協力

役員選任実行委員会

委員長: 鈴木由路

1) 2019年度総会における役員選任の準備

上級タンデム技能証検定について

JHF教員・スクール事業委員会 委員長 北野 正浩

前回のJHFレポートでご報告したとおり、3月12日(火)～14日(木)に静岡県朝霧エリアで、初回の上級タンデム技能証検定会を実施し、パラグライダー30名、ハンググライダー8名の方が合格しました。

上級タンデム証と教員技能証を併せ持つ方は検定員となり、各地で検定会を開催できます。

従来のタンデム技能証を持つ方には、1年間有効の「暫定上級タンデム技能証」をお送りしました。2020年4月1日以降も上級タンデムの効力を維持したい方のために、今後の検定ののご案内をします。

上級タンデム技能証検定の概要

●検定に合格すると、3年間有効の上級タンデム技能証を取得でき、乗せることのできるパッセンジャーの制限がなくなる。

●検定会は、教員・スクール事業委員会が検定員を招集し開催する。または、検定員が委員会に検定会開催を申請し、委員会が1名以上の検定員を任命し派遣する(検定会は検定員3名以上で実施し、少なくとも1名は、同一の企業グループやスクールに属さない者でなければならない)。

●受検者数の目安は10～20名とする。応募者が10名を下回る場合は開催を見合わせることもある。

●受検料は全国一律で15,000円とする(エリア使用料及びテイクオフ・ランディング送迎料等は別途)。

●検定は2日間の日程で行う。

●ハンググライダーの検定については、教員・スクール事業委員会が承認すれば、現地で検定をする検定員を減員できる。撮影したビデオを他の検定

員が判定し、合計3名の判断により可否を判定する。

※ハンググライダーの検定員が全国で8名のみで、3名が現地に集合するのは物理的にも費用面でも困難なため。

検定員の皆様へ

検定会開催の手引書、実技科目の採点表、採点基準のビデオを送付します。内容を確認の上、検定会の開催をご提案ください。

受検予定の皆様へ

上級タンデムの実技検定で求められる技量は、教員がB級やNP証の練習生にお手本を見せるレベルです。技能証規程を参照し、検定内容を確認して練習をしておくことをお勧めします。

実技科目の採点表及び採点基準のビデオも用意してありますので、JHF事務局からお取り寄せください。

健康診断書について

2019年2月にJHFの健康診断書様式を定めましたが、医療機関によっては発行が困難であった事例があったため、項目を改めました。

診断書の様式は受検希望者に送付しますので、事務局にお問い合わせください。

新しい様式では「視力、血圧、尿検査、心電図」のみとなっています。また、これらの検査項目を含む、医療機関作成の健康診断書も有効となります(例：企業及び市町村による健康診断書、航空身体検査証明書、JML健康診

断書)。健康診断書の有効期間は、診断日から1年です。

検定会の予定

現在、下記のように開催を予定しており、参加者の仮募集をしています。参加をご希望の方はJHF事務局にご連絡ください。

詳細な日程や、これ以外の開催予定についても、決まり次第JHFホームページで発表しますので、定期的にご確認ください。

■北海道(エリア未定)

8月上旬の平日、または9月上旬の平日(日程調整中)

■東北(山形 十分一エリア)

10月中旬の平日

10月中旬の週末

■北陸(石川 獅子吼エリア)

10月2日(水)・3日(木)

■関東(茨城 足尾エリア)

11月

■東海(静岡 朝霧エリア)

10月下旬の週末

2020年1月

■近畿(兵庫 市島エリア)

9月下旬

■近畿(和歌山 紀ノ川エリア)

12月10日(火)・11日(水)

12月14日(土)・15日(日)

■四国(香川 五色台エリア)

10月中旬～下旬の平日

■九州(熊本・大分・福岡 エリア未定)

9月10日(火)・11日(水)

10月5日(土)・6日(日)



第1回検定会、ソロフライト実技検定の様子。



朝霧での第1回検定会は3日間。61名が参加した。

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

JHFでは現在、二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用しています。日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。また、2010年11月より「機材情報登録」を、より広い範囲の機体情報提供のために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を掌握することを目的としています。

型式登録機				
登録番号	PI-1115~1119	PI-1120~1125	PI-1126~1130	PI-1131~1134
登録年月日	2019年 5月31日	2019年 5月31日	2019年 5月31日	2019年 5月31日
製造者	OZONE	OZONE	OZONE	OZONE
製造国	イギリス	イギリス	イギリス	イギリス
型式	JOMO XS~XL	BUZZ Z5 XS~XL	GEO5 XS~L	LM6 S~L
認証	EN	EN	EN	EN
クラス	A	B	B	D
飛行総重量(kg)	55~130	55~130	55~115	65~120
適正技能証	B証以上	NP証以上	NP証以上	P証以上
輸入者名(販売者)	ファルホーク	ファルホーク	ファルホーク	ファルホーク
URL	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp	www.falhawk.co.jp

県連だより

■茨城国体でHG・PGデモスポ

茨城県ハング・パラグライディング連盟

9月28日(土)から10月8日(火)まで、第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」が開催されます。正式競技・特別競技及び公開競技開催の前に、デモンストレーションスポーツ(デモスポ)として、ハンググライ

ディング・パラグライディングの大会が、下記のとおり行われます。

開催日：2019年9月7日(土)

予備日：9月8日(日)

会場：茨城県石岡市 ハンググライダー・パラグライダースクールnasa／エアパークCOOパラグライダースクール

種別：ハンググライダー部門、パラグライダー部門ともにクロスカントリー
参加者数：各部門50名、合計100名
申込締切：7月31日(水)

詳細は、いきいき茨城ゆめ国体2019のホームページ(実施競技→デモスポ)をご覧ください。
ibarakikokutai2019.jp

第6回JHFフォトコンテスト作品募集中！

第6回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストにぜひご応募ください！

JHFは、ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考え、フォトコンテストを開催しています。

前回から、印画紙でのご応募だけでなく、データ(10MB以内、jpg形式、メール送信可)でのご応募も受け付けています。賞金は、最優秀賞(1作品)5万円、優秀賞(1作品)3万円、入選(数点)各1万円です。また作品の中から14点を選び2020年JHFカレンダーに掲載します。

応募締切は9月9日(月)受付まで

(郵送の場合は当日消印有効)。

自分の力で空を滑空できる醍醐味を感じられるような作品を期待します。

詳しくはJHFウェブサイトをご覧ください。全国の皆さまからのご応募をお待ちしています。



第5回フォトコンテスト最優秀賞 前島聡夫さん撮影「夢心地」

どうすれば事故を無くせるのか？

JHF安全性委員会 委員長 竹村 治雄

【事故ゼロキャンペーン2019】

事故を起こさず安全に飛び続けること。それはフライヤーなら誰もが願うことでしょう。しかし、なかなか事故は無くなりません。今年前半も、すでに3件の死亡事故が発生しています。そのうち2件はパラグライダー、1件はハンググライダーの事故でした（詳細は後述します）。ほかにもパイロットは軽傷でしたが、重大なフックアウト事故もありました。

何とか事故に歯止めをかけたい。フライヤーひとりひとりに「気をつけてください！」と伝えたい。そこで、今年も7月31日から8月19日まで、事故ゼロキャンペーンを実施することにしました。キャンペーン期間中はより一層の安全確保に、フライヤー各自、スクール、エリアごとに取り組んでくださるようお願いします。

【どうすれば事故を無くせるのか？】

レッグベルトの締め忘れや、フックアウト事故は、ヒューマンエラーが事故につながる典型的なものです。このようなエラーは、一般的にスリップ、ラプスと分類されるエラーです。

スリップは、ある目的を達するための一連の行動の一部で間違った操作をしてしまうエラーのこと。ラプスは、一連の行動の一部を飛ばしてしまうエラーです。

このようなエラーを防ぐには、まずフライヤーがテイクオフの準備など一連の動作を確実にこなすように訓練をすることが重要です。そのためには、一連の動作の順番を決めて、毎回その

通りに実施することは大変有効です。また、毎回同じ手順で同じ動作を実施することで、スムーズにテイクオフの準備が行えるようになります。

その上で、昨年配布したチェック5タグの内容をフライト前にセルフチェックすることで、万が一のエラーを発見することができます。

さらに、テイクオフ場の他のフライヤーはクロスチェックを励行してください。スリップやラプスを起こさない、起こしてしまっても、チェックで確実に見つけることが重要です。

過去のレッグベルトの締め忘れの事例を見る限り、テイクオフを一度取りやめた時に外したレッグベルトを締め忘れるなど、通常の一連の動作とは異なる動作をした場合にミスが起きている事例が多いように思われます。

一方、空中でグライダーが潰された時に起こるヒューマンエラーもあります。例えば、潰れに対して誤った操作をしてしまうものです。このタイプのエラーは、ミスと分類されるもので、その場で修正することはできません。

例えばパラグライダーの場合、空中で潰されてそのままスパイラル状態で

墜落するとき、正しい操作を習得していなければ、このミスは修正できないこととなります。一般的には、片翼潰れについては、直線飛行を維持することが最も重要です。その後、目視で翼の状態を確認しつつ、潰れの状態を回復させます。こういった一連の操作を事前に練習で経験しておくことが、エラーを防ぐのに効果があると言えるでしょう。

【2019年前半の重大事故】

今年1月から6月までの間に、下記の3件の死亡事故が発生しています。

■4月22日 ハンググライダー トーイングによる教習中にリリースができずに墜落し、講習生が死亡。

■5月6日 パラグライダー 離陸後に天候が急変し、緊急ランディングを試みた際に、下降気流によりパラグライダーが潰されて落下、救急搬送先の病院で死亡。

■6月18日 パラグライダー パイロットが雲中飛行したのちに行方不明になり、エリア関係者より捜索願が出されたが当日は発見できず、翌日ツリーラン後に自己脱出を試みて失敗したと思われる状況で死亡を確認。



チェック5タグの内容に沿ってプレフライトチェックをする。1：レスキュービン、2：ラインチェック、3：バックル 4：無線機 5：風の状態



2018年パラグライディングアキュラシー日本選手権 in 小山より。(記事の内容に関係はありません。)



ハンググライディング選覇アップカップ2019 in 耳納には大ベテランパイロットが参加、年齢を感じさせない健翔を見せた。

以下は死亡事故ではありませんが、昨年に続いて、フックアウト事故の報告がありました。

■ 2月17日 ハンググライダー フックアウト事故 ハングチェック後に、ランチャー台に上がったものの、風が悪く、一度ランチャー台から降りてカラビナも外した。その後、風がよくなったためカラビナをかけずにテイクオフし、ランチャー台の下に落下した。幸いにも、フライヤーは軽傷だった。

【加齢による身体能力の変化に対応】

報道では、毎週のように高齢者による交通事故のニュースが報告されています。実際の事故率は必ずしも高齢者が高いわけではないのですが、加齢による身体能力の衰えが原因とみられる事故も多いのは確かです。

そこで、パラグライダーでいつまでも安全に楽しくフライトするための対策を集めてみました。この他にも色々考えられると思いますが、参考にしてください。

● グライダーを自分の身体能力に合わせる。

グライダーのクラスを下げることで、身体能力の衰えをカバーすることができます。クラスが上のグライダーほど、潰れやサーマルなどに対してのアクティブな操作を要求されます。そこで、例えばCクラスのグライダーをEN-Bクラスにするとか、EN-BクラスをEN-Aクラスにするなどで、グライダーに対する操作の遅れをカバーできます。グライダー自体の性能は向上し

ているので、クラスを下げてでもグライダーの浮き自体はあまり変わりません。ただ、このような決断は勇気が必要かもしれません。いろいろな機会を見つけて試乗をして決めるのがよいでしょう。

● フライトコンディションを選択する。

今まで無理なく飛んでいたコンディションでも、身体能力の衰えに伴い難度が上がります。荒れたコンディションほど素早い対応が求められるため、今まで飛んでいたコンディションでフライトしても、サーマルに弾かれたり、揺らされたりで、飛びにくくなることもあります。

さらに、テイクオフ動作が緩慢になったりした場合も、無風でのフロントライズアップができない、なんてことになりかねません。

その日のコンディションでフライトできるかどうかは、自分の持つ技能証の種類が決めるのではなく、パイロット一人ひとりが持つ個人の技能とその日のコンディションが決めるものです。そして、その判断を正しくできるのが一人前のパイロットです。「昔は飛べたから飛べる」ではなく、今の自分の身体能力に基づいて判断してください。

● 身体能力の衰えを防ぐ、体を鍛える。

一般に筋肉量は加齢とともに減少します。しかしながら、上手にトレーニングを行うことと、必要な栄養素を取ることで、年齢に関係なく筋肉を成長させることができます [1]。ただ、高齢者が筋肉を成長させるには、より

多くのタンパク質の摂取が必要なようです。「最低でも一食あたり20グラム以上のタンパク質を摂取し、週一回以上のトレーニングを行うとよい」と多くの書籍に記されています。この20グラムのタンパク質は、肉や魚であれば100グラム前後に相当する量です。筋肉と健康を維持して、フライトを永く楽しむ努力をしてみてもいいのではないでしょうか？

[1] 佐藤健一著『やせる！若返る！ズボラ筋トレ』マキノ出版 2019年

安全性委員会では、今後も事故情報を分析し、より安全なフライトを実施するための情報を発信してまいります。

そのためには、重大事故だけでなく、事故につながりかねないインシデント等についても積極的に情報収集していきたいと考えています。JHFウェブサイトの「事故情報収集ページ」等から情報をお寄せください。

* 5月28日の安全性委員会で、伊尾木浩二さんから竹村治雄さんが委員長を引き継ぐことになりました。

誰でも簡単に事故目撃レポート

起きてしまった事故を二度と繰り返さないために、JHFでは安全性委員会を中心となって事故の報告をまとめ、フライヤー会員の皆さんに注意喚起する活動を続けてきました。

ところが、報告されない事故があります。そこで、事故の目撃情報をJHFウェブサイトから簡単に報告することができるようになりました。事故を目撃したら、どなたでも、会員トップページから「事故情報収集ページ*」に入り、日時や場所、事故の状況などをわかる範囲で入力、送信してください。個人名を入力する必要はありません。

同様の事故を繰り返さないための情報集めに、ご協力をお願いします。情報を共有し事故ゼロを目指しましょう。

フライヤーが怪我をしていなくても、機体が壊れていなくても、また、事故にはならなかったけれどヒヤリとしたりハッとしたインシデント体験についてもぜひお知らせください。

* 事故情報収集ページ：JHFウェブサイト、会員トップページの左上に入口があります。

130kmもトップゴール、板垣直樹が完全勝利！

4月12日-14日 茨城県石岡市足尾山ハンググライダーエリア 報告：競技委員長 大澤 豊

■ 4月12日

競技初日は上空の寒気の影響で、曇っていても午前中からサーマルが活発でいい条件。しかし弱気な選手に組まれたタスクは山沿いを一往復半したのちに東の平地に出てから再び山並みを越えて西の平野、関城ゴールまでの約45km。

スタートは12時20分、テイクオフオープン直後に渋くなり、苦勞する選手たちをしりめに板垣が抜け出て雲底1900m。

上空だけ雪が降る厳しいコンディションで、スタート前に雲底につけた選手は雲に吸い上げられないように注意が必要だった。

スタート後も雲を効率よく使った板垣がつくばで低くなりながらも直で役場に向かい、他の選手よりサーマルひとつ少なくターンポイントを回り西に出た。その後はまっすぐ、1時間ちょうどでトップゴール。

板垣に8分遅れで櫻井、三番手に山本・塩野と続き、9人の選手がゴールした。

スタート時に出遅れた選手は、発達し過ぎた雲が日照を遮りサーマルが弱くなってしまい、足尾の山並みを越えられず西側平野まで出ることができなかった。



国内史上最長の130kmトライアングルにゴール者4人。今後の競技に期待したい。撮影：杉山祥一

■ 4月13日

競技2日目は国内では最高距離となる130kmのトライアングルタスク。

前半はフォローで約70kmを折り返して、クロスアゲンストになる平地を約20km進み、最後にアゲンストのレグを約40kmという厳しいものだった。

タスク前半の雲底は2500m、フォローのレグで絶好のスピードレースコンディションだった。

しかし、折り返しの宇都宮方向は向

かい風に加え、高気圧による沈降性の逆転層でサーマルは弱まり、サーマルトップも1300～1500m程と一気に下がりが、厳しさを増した。

1stTPは全員が余裕でクリアするが、2ndTPクリア後に先頭の林寺がランディング。その後もアゲンストに苦戦した選手は2ndTP付近に次々と降りてしまった。

生き残った6人がゴールを目指す。山本はゴール5km手前で力尽き、大沼はタスクフィニッシュタイムに泣いてランディングを余儀なくされた。

ゴールには板垣の4時間1分を先頭に佐々木・櫻井・岡田の4選手が意欲と根性でたどり着くことができた。

■ 4月14日

競技3日目は天候が悪く風も強く競技キャンセル。



林寺仁、テイクオフ。2日目は先頭を走るも無念の中途ランディング。撮影：杉山祥一



今年も表彰台中央は板垣直樹。来年は誰が？

3日間のうち、絶好のコンディションはTask2の一日で、2日の競技成立となった。初日のレースタスクでは板垣の強さが光ったが、2日目の国内初となる130kmのビッグタスクは、さすがClass Vの選手と性能で、それぞれの選手が自分の強さを発揮して良い飛びをした。

大会ならではの難しいタスクで、普段は飛ばないようなコースを飛び、それぞれの選手が新たな発見をして自分のスキルアップを実感したのではないだろうか。

今回、準優勝の櫻井が台頭して強さを発揮した。また、ベテラン選手たちもいい刺激を受けてやる気を出したのではないだろうか。

今回は板垣の完全優勝、8度目の日本選手権者となったが、徐々に参加選手も増えており、今後の盛り上がり期待し、新たなチャンピオンの出現にも期待したい。

成績

1位	板垣 直樹	茨 城	1984点
2位	櫻井 大朗	栃 木	1683点
3位	佐々木則生	埼 玉	1538点
4位	山本 剛	神奈川	1427点
5位	岡田 伸弘	静 岡	1425点
6位	塩野 正光	栃 木	1333点

日本選手権者から

板垣直樹

今回の競技では2日間で合計175kmを飛んだ。

初日のタスクが44.3km。そして2日目には日本初の長距離となる130.7kmトライアングルタスクが設定され、4人のゴールが出た。130kmを4時間1分でのゴールは達成感も大きく、国内での競技の幅を一気に広げることもできたと思う。

両日をトップでゴールすることができ、日本選手権者となれたことは大きな喜びです。



両日トップゴールの板垣。8度目の日本選手権者。

Class Vはまだ競技者は少なく、日本選手権の参加者も多くない。しかし競技の難易度は高く競技者のレベルも高くなってきている。今後も更に高いレベルでの競技を行い、日本のレベルアップになるようにまだまだ上を目指して飛びたいと思います。

参加した選手の皆さん、大会を運営してくれたスタッフの皆さんありがとうございました。また、来年もよろしくお願いしますね！

パラグライディング日本選手権 IN 獅子吼高原

季節はずれの寒さが雨を呼び、無念の不成立。

4月26日-30日 石川県白山市獅子吼高原スカイレジャーエリア 報告：大会実行委員長 山口 隆文

獅子吼高原（石川県・白山市）にて4月26日（金）～4月30日（火）の5日間、クロスカントリーのパラグライディング日本選手権が開催されました。5日間の日程での大会は国内では珍しく、5日間もあれば良いタスクが成立することが期待されました。その期待のあらわれからか、エントリーは97名（海外選手2名含む）を数えました。

■初日

残念ながら朝からの雨で、回復の見込みがないことからキャンセルとなりました。



白山市長をはじめ来賓の前で、岩崎選手が宣誓。

■2日目

白山市長、県議会議員、白山市議会議員の方々にご出席いただき、岩崎選手の選手宣誓にて開会式が行われました。

開会式の始まりには降っていた雨で

したが、開会式が終わった頃には上がっていました。開会式後、ブリーフィングを行い、13時半までのウエイティングとなりました。

13時半、天気も好転、風もよくなりそうな予報なので、選手は入山。天気



大会2日目、雄大な眺望をバックに選手・役員が集合。明日こそ！

は非常によくなり、風向風速が不安定ながら飛べなくも無さそう。

テイクオフは西風4m/s程度ですが上空は北風っぽい。空の状況が不安定な感じがしたので、実行委員長がダミーでテイクオフ。上空は強めの北東が入りこみ、テイクオフだけ西風という状況で、非常に激しいコンディション。高度が下がると更に強い北風でグライダーが進みません。この状況では競技はできないと判断し本日もキャンセル。

■ 3日目

晴天であったが、朝からフォローの風が予報以上に強かった。午後から北西のアゲンストに変わる見込みもあり、タスクを組み、ひたすらウエイティング。日本選手権成立のためには、なんとか今日タスクを飛び、少しでもデイクオリティを稼ぎたい。しかし、15時まで待っても状況は変わらず、無念の競技キャンセル。

■ 4日目

予報が良く、大きな期待で迎えた朝。午前中は晴れ予報だったが、朝から曇り。なんとも表現できない哀しみに襲われる。テイクオフの風は良いが、雲が取れず厚くなる一方。

26キロのタスクを組んで、エラップスでゲートを開け続ける。少しでも良いタイミングを狙い選手はテイクオフ。一瞬、少しだけトップアウトする選手も出たが、大半がスタートシリンドラーを取ってランディングのワングライドフライト。残念ながらミニマムを超えた選手はおらず、デイクオリティは0。

■ 5日目

朝から雨模様の天気、昼まで続きそう。午後からの好転に期待して昼から山に上がる発表。しかし、雲囲気がよくない雲なので、選手とも相談し本日のタスクキャンセル。

ところが、タスクキャンセルしたと同時に天候が予報以上に好転、選手達は入山してフリーフライトとなりました。この時間が5日間で最も良い条件になってしまった。

毎年、この時期は天気が良く、南西の風の強さとの戦いと思っていたが、季節はずれの寒さにより北風が入り込みやすく、雨が降りやすい状況となってしまった。不運というしかない5日間となりました。

大会最終日にパーティーと表彰式・閉会式を開催。表彰式は、4日目に飛

べた記録をもとに表彰しました。この条件にもかかわらず、より長く飛んで、少しでもチャンスをつかもうとしてくれた選手へということで、デュレーションの順位での表彰となりました。

パーティーは盛大に行われ、来年こそは日本選手権が成立するよう願って閉幕。

参加選手のみなさん、ありがとうございました。大会スタッフをしていただいた獅子吼高原パラグライダースクールのフ라이어の皆さん、お疲れ様でした。また、今大会は、白山市に全面的に支援していただき、非常に良い運営ができました。

この大会をきっかけに、行政とタイアップして、よりよい獅子吼高原エリア、獅子吼高原の大会が開催されることを願います。



粘りで表彰された選手たち。

総理主催「桜を見る会」に参加

4月13日(土)、東京都内の新宿御苑で恒例の総理主催「桜を見る会」が開催され、アジア競技大会で金メダルを獲得したパラグライダー日本男子チームが招待されました。以下、選手のひとり、呉本圭樹さんの報告です。

パラグライダーをしていて国の首相から招待状をもらうことになるとは思ってもいないことです。アジア競技大会というオリンピック関連の競技に参加することができたこと、そしてその中で金メダルを取るということの社会的影響の大きさがわかります。

この日、アジア競技大会パラグライダー男子総合でフライトした呉本、上山、中川、廣川、岩崎の5名は新宿御苑へ。雲一つない快晴。桜が美しく咲いていましたが、我々空人は、人の多さに圧倒されつつ空を見上げては、心

は遠く空の上(この日は茨城で100km越えが多く出た最高の天気でした)。



満開の桜を背景に中川喜昭。気象条件が気になる。



左から岩崎、上山、廣川、呉本。



人、人、人の波に圧倒された、好天の新宿御苑。

この会には皇族、政財界の著名人、芸能人、その他多くの方々が参加。その人数は10,000超。安倍総理の乾杯の挨拶で始まり、食事がテントで配られ、我々は、さてどうしたものかと会場をウロチョロ……。

芸能人枠や、政治家の方々の枠は別にあり、スポーツ選手は特に別枠を用意されていませんでしたので、残念ながら総理に挨拶はできませんでしたが、こういう席に招待されたことを名誉として参加させていただきました。

ハンググライディング・クラス1／パラグライディング／パラグライディング・アキュラシー 三つの世界選手権に日本チームが参戦

この夏開催の三つの世界選手権に出場する日本チームのメンバーが決まりました（ハンググライディングはいままさに競技の真っ最中）。天候に恵まれそれぞれが実力を発揮できるよう祈ります。

●第22回FAIハンググライディング・クラス1世界選手権

Fruili-Venezia-Giulia, ITALY



前回HG世界選手権はブラジルの首都で開催。

7月13日～27日

パイロット：鈴木由路、砂間隆司、田中元気、加藤実、太田昇吾、佐野容子
チームリーダー：浅井将平
（オープン参加：名草慧、サポート：岡田伸弘）

●第16回FAIパラグライディング世界選手権

Krushevo, North Macedonia

8月5日～18日



イタリア北部で開催された前回PG世界選手権。

パイロット：成山基義、呉本圭樹、平木啓子、廣川靖晃

チームリーダー：岡芳樹

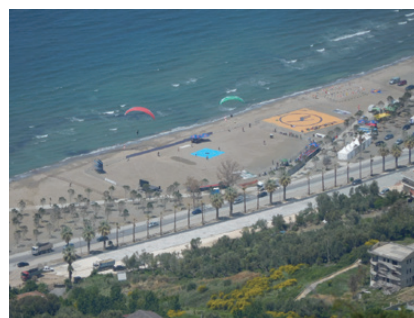
●第10回FAIパラグライディング・アキュラシー世界選手権

Vršac, Serbia

9月8日～18日

パイロット：岡芳樹、古田岳史、川村眞、伊藤まり子

チームリーダー：岡芳樹（兼任）



アルバニアでの前回PGアキュラシー世界選手権。

学連ニュース

日本学生フライヤー連盟理事長の墨です。新歓の季節も過ぎて全国各地のサークルでは新入生を新たに迎え、活気に溢れている様子が見られております。講習を終えて山から初飛びをした新入生も出始めて、とても嬉しい限りです。学生の新歓や体験にご協力ご支援いただいた皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

新歓はサークルごと、エリアごとで行われていますので、他のサークルがどんな新歓をしているのか知ることは難しいです。そこで学連では地域ごとの新歓の様子を吸い上げ、地区理事座談会を行いました。まだ、情報を収集することしかできていませんが、定期的に開催し、地域ごとの交流を深めていきたいと思います。また、今回集めた新歓の内容を全国のサークルへ発信する準備を行っています。これは同時にスクールや社会人フライヤーへも学生の活動を発信できればと思います。

学連の加盟人数は年ごとに波が大きく、伸び悩んでいるところですが、昨年から新しく金沢大にハンググライダーサークルが設立され、学連に仲間

入りをしました。部長からの言葉をここで紹介させていただきます。

初めまして。金沢大学ハンググライダーサークル部長の桑原大知です。

学連ニュースに記事を書かせていただき、ありがとうございます。この場をお借りして私たちのサークルが設立された経緯を紹介いたします。

私と副部長の望月は鳥人間コンテストのパイロット練習として2017年の初



金沢大HGサークル、春先の海岸練習。



雪の中で初飛びした副部長。

頭からハンググライダーの海岸練習を続けていました。2人とも山飛びレベルに達してきた2018年夏ごろからサークル設立の構想を練り、学連に加盟させていただき、2019年3月に行われた新人戦で、初めて金沢大学ハンググライダーサークルとして学連のイベントに参加しました。今年の新歓で2名の新入生を迎えて、今年度から6名で本格的に活動を始めています。

今後は学連に加盟しているサークルの1つとして、運営への協力やイベントへの参加をしていきたいと考えています。そして、それらを通じて積極的に他のサークルとも交流したいと思います。

また、私たちの指導をしてくださっている金子外幸教員をはじめ、北陸のフライヤーの方々から多大な協力と支援をいただいています。今後さらに北陸の学生ハングフライヤーを増やしていけるように、ハンググライダーに触れる機会の創出や情報の発信、飛びたい願望のある学生の発掘に注力していきたいと思います。

JHFからのお知らせ

■チェック5タグを頒布

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施しています。昨年は全国のフライヤー会員の皆さんに「チェック5タグ」をお届けしました（JHFレポート222号に同封）。それぞれタグを活用し、プレフライトチェックの徹底に役立てておられることと思います。

このタグをご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。

JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）。メールかFAXにてご連絡ください。

今後も「チェック5タグ」を装着し、フライトの基本中の基本、プレフライトチェック、クロスチェックを徹底されるようお願いします。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は、JHFウェブサイトの「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」ページより貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力の上、メールかFAXでお申し込みください。

■転居のお知らせや各種申し込み お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには、事故ゼロキャンペーンリーフレット、賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・

パラグライディング連盟

JHFレポート226号

発行日：2019年（令和元年）7月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ



www.toto-dream.com www.toto-growing.com
※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイト）にバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。うっかり忘れていたということのないようお願いします。